

道玄だより

第4号

「和の空間の伝統」

その昔、鴨長明は隠遁生活のために十尺角の方丈庵を造った。いわゆる四畳半の空間である。良寛さんも五合庵という同様の住まいで過ごしていた。

先の大戦の敗北により、日本は大きく変貌した。

なかでも住宅建築における伝統が絶えてしまったことは、現代人の生活に悪影響を及ぼしている。たとえば、プライバシー重視という名目のもとに、壁で細かく区切り部屋数を増やす間取りは、家族の風景が見られなくなり、子どもの孤立にもつながり、家族崩壊を招く原因のひとつになっている。

また、住まいの気密性や断熱性が重視される余り、雨の降る音や風の吹く音、鳥のさえずりなどの自然から隔離されたものになってしまっている。

住まいは閉ざされた世界ではなく、自然と適度に呼応した小宇宙のような空間でなければならない。宇宙との一体感や地球に抱かれている自分を意識できることが、日本の建築空間の伝統であった。

質素で小さな住空間でも、全宇宙を宿し、長明や良寛を大きく育んだ伝統文化を忘れてはならない。

代表取締役 澤野道玄



● JLTF 2010 in Kyoto に参加しました

1月18日～19日、2日間で京都ハイアットリージェンシーにて開催されました。

JLTF (ジャパン・ラグジュアリー・トラベル・フォーラム) 2010とは

経済産業省と日本貿易振興機構 (JETRO) が中心となり『海外富裕層による旅行』市場に向けて企画された、旅行者と『「和」コンテンツ』保持者との商談フォーラムです。

JLTFについて、詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.jltf.net/japanese/index.html>

フォーラム参加レポート

今回参加させて頂きましたJLTFで、いかに海外からも「和の空間」が魅力的に感じて頂けているかを改めて実感する事ができました。

今後ともわが社では、社寺建築や伝統美術の修復で培ってきた技術や経験を活して、日本文化が秘めている「本物の良さ」を継承し、より多くの方々にその真髄に触れて頂きたいと願っております。 (営業部 河村悠介)



● 我社が考える『和空間』のエッセンス



さわの道玄は文化財修復現場への『観光案内』と『和空間のお話し』を商品として展示いたしました。

～方丈記に学ぶ～ “広さは方丈” “組立式”

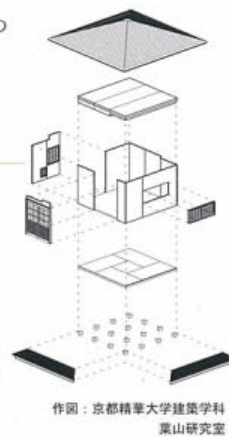
鎌倉時代、鴨長明によって「方丈記」が執筆されました。長明は、京都中の山々を方丈庵という組立式の移動可能な庵とともに、自由に移動しながら方丈記を執筆したそうです。その庵の広さの10尺×10尺 (四畳半) が由来で、方丈庵と呼ばれます。

長明の精神を取り入れ、空間の持つ精神性を提案しています。

～室内に和の装飾空間を～

今回は京都に伝わる「唐紙」を採用しました。

壁は生活を彩る背景です。フォーマルに縛られず、自由に壁を飾ることで既存のスペースを和の空間として演出することができます。



作図：京都精華大学建築学科 葉山研究室

温故知新～会議室に和心を～

ある大手飲食チェーン店の社長様は、あるとき京都大山崎の「待庵」を訪れ、わずか二畳という空間で当時の人たちはどういう気持ちで話をしていたのだろうか、とお考えになったそうです。

その気付きから、和空間の限定された広さこそ本音で話せ、お互いの言葉にならない温度や空気や「想い」が伝わる空間であるとお考えになり、四畳半の和空間を会議室としてお使いになれるそうです。

私たちは「腹を割って話す」という言葉を使います。そういう独特な言葉を持つ国だからこそ、「空間」から日本のコミュニケーションを見直してみれば、新たな発想に繋がるかもしれません。

■ 植田様邸 襖絵

(平成17年納品)



植田様より

「離れた襖に花びらを散らす、それぞれの襖に必ず生き物を入れるなど、自分が思っていた遊び心を実現できたことがとても嬉しい。優しいタッチの絵を非常に気に入っています。」



わたしの好きな文化財

澤野道玄

三重県の松坂に「鈴の屋」がある。

国学の泰斗、本居宣長の住まいであった。今は松坂城跡に移築され、記念館として見せている。

その日はまだ肌寒い早春の午後であった。何でもない佇まいの「鈴の屋」に一歩入るなり、凛とした張り詰めた空気に、本居宣長 - その人が今も住まわれているような錯覚が起き、たちまちその空間の虜になってしまった。

人が住まいを造り、住まいが人を造る。

まさにその典型を見たと思った。以来「鈴の屋」の室内が、本居宣長とともに脳裡に浮かんで消える。

◇発行 株式会社さわの道玄

企画、編集：徳永
デザイン：四元

〒604-8232
京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491番地
TEL 075-254-3885 / FAX 075-254-3886
http://www.sawanodogen.co.jp (道玄よりはホームページにも掲載しております)

施工例の紹介

さわの道玄では、ご自宅の襖や社寺の調度品もオーダーメイドで新調させていただいております。ここでは、当社の施工例とお客様から頂戴したご感想をご紹介します。

■ 高野山蓮華定院様 漆扉絵画

(平成20年納品)



添田御住職様より

「冬は締め切った状態であるため紅葉の図が見え、春夏は開けておく為に裏側の蓮池図が見えます。季節によって二通りの楽しみ方をすることができます。訪れる方の反響も想像以上によく、大変喜んでおります。」

■ 東山マンション天井

ユリカモメの絵画新調

(平成17年納品)



オーナー岸本様より

「天井や壁は無機質な空間ですが、絵をいれることで空間が生きます。鴨川近くなので、冬に訪れる都鳥(ユリカモメ)を選びました。」

外から中に向かって飛ぶ姿には、父親との思い出である『鳥は幸福を「とりこむ」』という言葉に基づいています。」

圓塾講座

～圓塾は、文化財活用を推進する
朝さわの道玄の姉妹事業です。～

圓塾(えんじゅく)へのお問い合わせはこちら

〒615-8205 京都市西京区松室中溝町30-11
TEL 075-382-1238 / FAX 075-382-1239
http://www.enjyuku.info

和文化コラム 第2回

文化財でもっと世界を元気に!

～色が持つ癒しの効果～

圓塾 澤野ともえ

色は森羅万象にあります。太古より人は色に魅せられ、自然物から沢山の色を作り、自らの手で美しい色を表現してきました。それが文化財となって現代に受け継がれています。

私たち人間は、目からだけでなく、皮膚や鼻、耳からも色の気を吸収しているそうです。ですから、知らずうちには色は私たちが不快にし、または癒してもいるのです。色の持つ力は無限であり、活かし方次第です。

何と言っても文化財は、人と自然が長い年月をかけて紡いできた色の宝箱です。色の効果という視点から、心身の健康に役立つものとして、再度、文化財を見つめてみませんか。



さあくる講座のご案内

五行の道をゆく

2010年のさあくる講座は、陰陽五行説「木、火、土、金、水」をイメージしたハイキング講座を企画しました。

木は水を得て生長し、木は燃えて火を生みます。
火はやがて燃え尽きて土となります。
土は懐に金を抱き、金は冷えて水滴を生じます。

五行の道を訪ね、ゆかりある食事も味わって心身を満たしましょう。
案内人は朝さわの道玄 社長 澤野道玄です。



第1回 巨樹を求め 2010年4月11日(日)
(鞍馬～貴船) 鞍馬の巨樹を求めて

第2回 疎水名水に憩う 6月6日(日)
(山科～南禅寺界隈) 水脈と水路を訪ねて

第3回 京の土に塗れる 10月8日(金)
(伏見界隈) 縄文土器からセラミックへ

第4回 金の音を訪ねる 11月8日(月)
(難波界隈) 鍍金技術と刀剣鍛錬事

第5回 火霊に焦がれる 2011年2月27日(日)
(左大文字～平野神社) 京の火床と焚き火を囲んで

<参加費>

1回4,800円 4回セット18,000円
3回セット14,000円 5回セット22,000円

参加ご希望の方は
圓塾までご連絡ください。